

これからの企業経営について

鳥飼 重和弁護士に聞く

前回に続いて、企業法務に詳しい本学OBの鳥飼重和弁護士を訪ね、今回は、将来において社会を担う私たちが学生時代をどのように過ごすべきかについて話を聞いた。



とりかい・しげかず 1970年本学法学部法律学科卒。税理士事務所勤務後、1990年に弁護士登録。商法を中心とした企業法務や税務訴訟などが専門。日本税理士連合会顧問、鳥飼総合法律事務所代表（現在、所属弁護士21名）。58歳。

つていたの事があるようにあります。弁護士をやっている私も、本職で重要な仕事は今のままで成功した人は、例外なく、良い人との出会いが多いです。

その意味では、社会的な生活をする場合には、他の人から恩恵を受けていることを忘れず、感謝の念を持つことが必要です。成長の結果、自分の成長に合わせる人間関係の基礎を築いていくのが人生です。運とツキというものはありますが、その出発点も自分の心持ちで決まるといえます。先ほど、人との出会いをツキと表現していましたが、それは、自分の心持ちで決まるといえます。先ほど、人との出会いをツキと表現していましたが、それは、自分の心持ちで決まるといえます。

一つに絞って徹底的勉強を人間としての成長をしていく中で、やはり専門性や特殊性を身に付けることも大切だと思えます。特にこれからは、特殊性があるかないかで社会からの評価が違ってくると思います。今のところは、日本はまだまだ横並びの社会です。ある電気メーカーがテレビを作れば、他のメーカーもテレビを作るのです。ところがアメリカなどは、一つの分野を一つのメーカーが専業で行う、差別化が徹底しています。そして、日本も徐々にそうなっていくと思います。だからこれから、特殊分野で頼りにされる人がどんどん活躍の場を与えられるでしょう。

【3】学生時代になすべきこと

良い師、良い友に出会おう

自分の人間性
高めること
社会に出て、良い仕事を
するにはやはり、他人の助け
が必要であり、自分一人
ではできない、というところ
をよく知らないといけません。
人生を歩んでいると
徐々に、他の人に支えられ
ていることを実感するもの
です。仕事は社会的なもので
あるから、仕事の基礎には、
必ず、人間関係が横たわって
いるのです。ですから、いかに
良い人との出会いを積み重ね
ていくかが

は友を呼ぶ、という言葉が
ありますが、良い人との出会
いには、自分がその良い人
と同様となる必要があります。
そのために、人間性が高
い人との出会いには、自分の
積み重ねを運を拓くと知
る実績で、次第に、重要な
仕事を任せられるようになる
ものです。

大事です。昔の人は好んで、「師
友」という言葉を用いたの
は、的を射たものです。良い
師、良い友に出会うこと
が、ツキを掴む、そのツキ
が、人間的な成長の基礎を
築いてくれると知

当头り前の
ことの実践を
頭の良し悪しとか、何か
に対して努力することも重
要ですが、もっと小さなこ
とが人としての差となって
現れます。当たり前のこと
が、社会的には、決定的な
差になります。たとえば、
朝、すれ違ったときに挨拶
ができるか、感謝の言葉を
自然に発することができ
るか、約束の時間には絶
対に遅れない。このよう
に、社会生活の中で心掛け
次第で誰でもできる当たり
前のことをきちんとできて
いる人というのは意外と少
ないです。こういう当たり
前の積み重ねを学生のとき
から実践すれば、人との
根本的な信頼関係を築きな
い人間になれると思いま
す。

ターしてやろうと決めて徹
底的に勉強すればいいと思
います。誰もやらないよう
な目標を一つでも二つでも
定めて、法学でも経済学で
せん。受け身の人生は面白
くない。例えは言語な
ら英語は当たり前のから目
分は人間的な成長の基礎を
築いてくれると知ります。
しよつといつのでいい
です。(完)